

# 事業評価調書

## ◎基本情報

年度	令和3年	会計コード	10	一般	事業コード	20164
事業名	博物館活動センター事業費					
評価担当課	所属名	市)文化部 文化振興課				
	課長名	浜部 公孝	担当者名	工藤 将貴	電話番号	374-5002
施策名	主	将来を担う創造性豊かな人材の育成・活用				
	副					
アクションプラン	● 対象 ○ 対象外		戦略ビジョン	● 対象 ○ 対象外		
事業の性質	○ 経常経費 ● 臨時的経費					
	○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理					
事業内容	実施形態	● 直営 ● 一部委託 ○ 全部委託 ○ 補助助成 ○ その他				
	目的	短期	博物館活動センターの活動を通じ、自然史の観点から「さっぽろ」の街の成り立ちや、自然と人の関わりの歴史を、子どもたちを中心とする市民や観光客に発信していくことで、「さっぽろ」の街の魅力を知り、学ぶ機会を提供する。			
		長期	市民とのパートナーシップによる博物館整備を推進する。			
	取組内容	博物館活動センターは、博物館整備に向けて、市民とのパートナーシップを基本に市民参画とソフト重視の博物館活動を展開する。 ①資料の収集・保存: 収蔵品の収集・保存や、寄贈標本の整理等を実施 ②調査・研究: 新種の期待がかかる小金湯産クジラ化石を中心に札幌の自然に関わる調査・研究を実施 ③普及・交流活動: ①・②の成果を、展示や行事、市民活動育成を通じて市民や観光客に対して発信する				
実施結果	資料の収集; 昆虫及び植物標本の整理分類、小金湯産クジラの骨格標本の作製(胴体部) 調査・研究; 小金湯産クジラ化石の調査及び研究、札幌の希少植物調査、市民参加による札幌市のセミ調査結果の取りまとめ 普及交流; 体験学習会、野外観察会、他機関との連携事業(計6回)、情報誌の発行(年2回)、新聞媒体での記事連載					
事業実施における工夫点	新型コロナウイルス感染症の影響により、休館時期があったり、中止となった事業もあったものの、感染症予防に配慮しつつ屋外での事業や参加者が密にならないような事業を実施した。					
対象者	市民・観光客	開始	平成13年度	終了	0 年度	
関連法令・条例・要綱等	札幌市文化芸術基本条例、博物館法、社会教育法、教育基本法					
他都市の状況	「大阪市立自然史博物館」「北九州市立自然史・歴史博物館」ほか、多くの政令指定都市において、それぞれ特色を持つ博物館を設立し、常設・企画展示や市民との協働事業などの多様な博物館活動事業を展開。					

## ◎事業費

(単位:千円)

	令和2年度決算	令和3年度予算	令和3年度決算	令和4年度予算	
事業費	6,564	14,000	15,563	18,000	
うち特定財源	0	0	0	0	
人工	1.8	1.8	1.8	1.5	
人件費	12,960	12,960	12,960	10,800	
計(事業費+人件費)	19,524	26,960	28,523	28,800	
事業費の内訳	令和3年度決算	収集保存: 12,089千円 調査研究: 208千円 普及交流: 714千円 その他事務: 2,552千円			
	令和4年度予算	収集保存(昆虫等標本資料整理、小金湯産クジラ骨格標本製作等): 11,993千円 調査研究(希少植物調査、小金湯産クジラ化石研究等): 1,834千円 普及交流(体験学習会、野外観察会等): 1,155千円 その他: 3,018千円			

◎検証(振り返り)

活動指標1	指標名	主催事業の体験学習会・イベント回数			
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
	5	14	6	10	
活動指標2	指標名	他機関及び学校との連携事業数			
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
	5	5	6	10	
成果指標1	指標名	博物館活動センター事業への年間参加者数			
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
	2,921人	4,000人	3,382人	15,000人	
成果指標2	指標名	博物館活動センターの来館者数			
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
	2,816人	3,000人	3,077人	12,000人	
項目	判定	理由			
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	B	令和2年度に続き新型コロナウイルス感染症の影響により、活動センターそのものの休館や、継続してきた事業の中止を余儀なくされた。一方で、コロナ禍においても実施可能な事業を模索し、屋外でのワークショップを実施したり、ホームページを活用した情報発信を積極的に行うことで、令和2年度よりも利用者数は回復し、3,382人の利用につなげることができた。			
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	B	コロナ禍において可能な事業を確保することができたが、コロナ以前に比べると事業の中止の影響は大きく、学校や他機関との連携事業の回数が減少した。一方で、「おうちミュージアム」の取り組みを継続し、積極的なホームページ更新を行い、コロナ禍における博物館の事業展開を模索することができた。			
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	A	感染リスクの低い屋外での事業や、ホームページでのコンテンツ提供を通じて、札幌の自然史への興味関心や、市民の学びへの環境整備を行うことができた。コロナ禍において可能な限りの取り組みを行うことができた。			
対象者の満足度 (対象者のニーズに応えているか)	B	オンラインで楽しむことができるコンテンツの提供はコロナ禍における利用者ニーズをとらえることができた一方、ハンズオン展示やリアルでの利用者参加型イベントができなかったことで、博物館利用者のニーズに十分こたえきることができなかった。			
市民参加の実施	<input type="checkbox"/> 企画 <input checked="" type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 評価 <input type="checkbox"/> 対象外		市民参加結果への対応		<input type="checkbox"/> 回答 <input type="checkbox"/> 反映
今後の改善点	アフターコロナを見据え、コロナ以前の事業展開を徐々に回復させる一方、新たな取り組みとしてのホームページでのコンテンツ発信を継続する。また、他機関との連携を深め、より多くの方に札幌の自然の魅力を伝えることができる機会を増やす。そのために、コロナ禍以前の水準への利用者数の回復につながるような取り組みを進めていく。				
前回の評価	○ A      ● B      ○ C      ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
今年度取り組んだ見直し内容	コロナ禍以前への回復を目指し、他機関との連携事業を再開しているほか、屋外でのワークショップなどを実施している。			見直し効果額 (前年度)	0千円
今回の評価	○ A      ● B      ○ C      ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
評価の理由	コロナ下での取り組みを継続しているほか、コロナ以前の事業を少しずつ再開しており、利用者数も回復傾向にある。				
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	● 改善      ○ 現状維持      ○ 休止・廃止 資料の収集・保存、調査研究、普及啓発といった主要事業を着実に推進するほか、他機関との連携をより強化し、利用者数の回復に努める。			
	予算	○ 拡充      ● 現状維持      ○ 縮小      ○ その他 博物館活動及び博物館の整備推進事業を一本化し、業務効率化を図る。			見直し効果額